

論文要旨説明書

報告論文のタイトル：情報通信分野の現代的様相
- ネットワーク効果の源泉を巡って -

報告者・共著者（大学院生は所属機関の後に（院生）と記入してください。）

報告者氏名：齊藤 恵太

所属：一橋大学大学院 国際企業戦略研究科
経営法務専攻（院生）

論文要旨（800字から1200字、英文の場合は300から450語）

これまで、情報通信産業における多くの議論は、固定通信における公正競争評価を主軸に検討が重ねられてきたように思われる。電気通信事業に競争が導入されて以降、自然独占性を有するNTT東西のボトルネック設備に対する競争の促進が議論の主な対象とされてきた。

ところが、情報通信産業においては隔世の感があり、固定通信及び移動通信の利用シーンの拡大や目まぐるしい急速な技術革新、さらには多様なコンテンツの創造・普及も相まって、競争が行われるレイヤーが複雑化・多層化し、その際限を画するのが困難な状況に近づいている。高速・無線のインターネットの普及、タブレット端末をはじめとする端末機器の低廉化、電子商取引市場の発展、検索サービスにおける確度の高度化、マッチングサービスの出現、SNSの多様化は当たり前の光景になった。

データ通信が主流となり、多様な事業者がそれぞれ総合商社のような様相を呈している現状にあっては、市場の融合・交錯がもたらす効果は、競争の促進と抑制の両側面が考えられ、総合的な効果として、いずれの方向に働くかは必ずしも明確でない。個別の問題毎に知見を蓄積していくしかないというのが実情であるように思われる。

以上を分析する手がかりとして、固定通信におけるネットワーク効果の源泉たる「接続」を巡る競争論を俯瞰する。次に、今日における情報通信産業を鳥瞰し、横断的に眺めるアプローチで、レイヤー（端末レイヤーネットワークレイヤー、プラットフォームレイヤー、コンテンツレイヤー）横断的な問題点を指摘する。最後に、情報通信産業に通底する含意を見出すこととしたい。レイヤー横断的な事業活動がもたらす総合的な効果は必ずしも一様ではないが、レイヤー間で垂直的に連なる各分野の事業活動の実態を注意深く観察し、ネットワーク効果を取り巻く規律の精緻化を試みる。